

発注量予測し自動管理

オザックス、クラウド提供

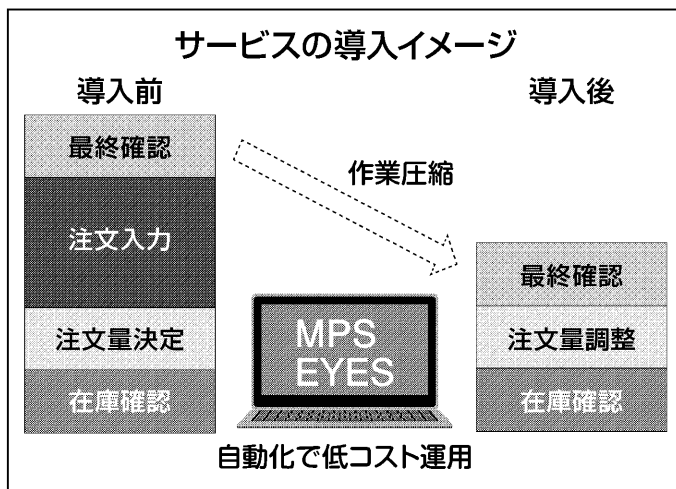
作業時間半減

オザックス（東京都千代田区、尾崎豊弘社長）は、製造業などに向けた発注自動化のクラウドサービス「MPS EYES」を発売した。過去のデータに基づいて発注数量や在庫数量を予測する機能と、発注予定データを作成・管理でき発注を自動化する機能を備える。属人的な勘や経験に頼る必要がなくなり、発注にかかる時間を半減できる見通し。数年後までに年間数億円の売り上げを目指す。

コニカミノルタジャパンと共同開発した。システム上で発注スケジュールを作成し、購買システムに発注予定データを自動で送り込む。手作業で注文を入力する必要がなくなるため、調達部門に人手

を割けない中小企業の需要を見込む。

予測機能と自動発注管理機能は組み合わせ使用することも単独で使うこともできる。導入費用は個別見積もりで初年度は数十事業者への導入を目指す。



オザックスはこれまで「MPS」のブランドで受発注や倉庫管理のクラウドサービスを

展開しており、全国の貴取締役専務執行役員 1万8000拠点で導入されている。MPS EYESは従来のクラウドサービスと組み合わせることで、導入すること

「既存・新規を合わせた顧客全体の約3割をフルサポートしたい」と説明する。

同社は外食産業向けの資材・食材販売や流通事業者向けの消耗品販売を手がける。近年はITサービスの開発と販売に注力しており、デジタル人材の獲得などで内製を進め